

決算審査特別委員会

委員長 奥井 憲興
副委員長 松坂 吉則

平成25年度一般会計の前年度からの増減

前年度からの増減 ()内は主な増減の内容

歳入

- 市税 31億4,000万円(1.9%↑) 増
(家屋の新增築等による固定資産税の増、企業収益の回復による法人市民税の増)
- 国庫支出金 39億1,300万円(7.7%↑) 増
(地域の元気臨時交付金の創設による交付金の増、生活保護費収入の増)
- 市債 4億5,400万円(1.1%↓) 減
(おゆみ野南中学校校舎等の取得完了に伴う小・中学校校舎買収事業債の減)
- 諸収入 110億8,300万円(22.4%↓) 減
(ちば消防共同指令センター整備完了に伴う共同運用消防指令センター整備事業収入の減、預託倍率の改定に伴う中小企業金融対策預託金収入の減)
- 県支出金 10億5,800万円(8.7%↓) 減
(地方交付税措置への振替に伴う予防接種事業費収入の減)

歳出

- 民生費：福祉(保育所運営・生活保護など) 47億8,100万円(3.9%↑) 増
(国民健康保険事業への繰出金の増、被保護者数の増加に伴う生活保護費の増)
- 土木費：道路・住宅・まちづくり 13億8,100万円(3.4%↑) 増
(国道357号湾岸千葉地区改良の進捗に伴う道路直轄事業負担金の増)
- 商工費：経済振興・観光振興 96億8,900万円(23.1%↓) 減
(中小企業資金融資預託貸付金の減)
- 総務費：行政・市民活動推進 17億9,100万円(6.1%↑) 増
(財政調整基金への積立金の増、美浜区役所の空調設備改修工事による区役所設備改修費の増)
- 教育費：小・中学校や社会教育施設の整備・運営 11億8,600万円(4.0%↓) 減
(おゆみ野南中学校校舎等の取得完了に伴う小・中学校校舎等買収事業費の減)

分科会での主な質疑をご紹介します。

総務分科会

所管 総務局・総合政策局・財政局・会計室・選挙管理委員会・人事委員会・監査委員・議会

財政健全化プランの取り組み結果の評価は

問 財政健全化プランの最終年度を迎えたが、取り組み結果の評価は。

答 予算編成時に見込んだ収支不足は解消し、実質公債費比率も早期健全化基準である25%超を回避した。しかし、収支不足を解消するために、基金からの借入などの財源対策をせざるを得ず、健全化判断比率も高い水準であることから、財政健全化は道半ばと考える。

水害に備えての対応は

問 土砂災害、水没・冠水の危険地域の水害対策の状況は。

答 都川と村田川の水害対策として浸水想定図を、土砂災害警戒区域等には、土砂災害ハザードマップを作成して危険度を周知している。また、草野水路等の過去に大規模な被害のあった場所は、警戒避難マニュアル等を定めて水位情報を見ながら適切に対応する。さらに、三角町での浸水には警報機等を設置し、連絡体制も構築している。

保健消防分科会

所管 保健福祉局・消防局・病院局

国民健康保険における保健事業の状況は

問 国民健康保険事業の決算のうち、保健事業において多額の不用額が出ているが、その状況と対応は。

答 主な事業である特定健康診査の受診者数の目標を73,000人と設定したが、実際には55,000人となったことが、主な要因である。目標に至らなかったことから、啓発や勧奨を行い、受診者数の増加に努めていきたい。

看護師の確保に向けての取り組みは

問 青葉病院では、看護師の離職を防ぐためにどのような取り組みを行っているか。

答 ここ2年間では、看護師以外の医療従事スタッフの人員を増やすなど、看護師の業務負担を軽減することに取り組んでいる。また教育担当の看護師を増やすなど、段階に応じた教育体制の充実を図ることにより、定着を図っている。

環境経済分科会

所管 市民局・環境局・経済農政局・農業委員会

事業系ごみの削減は

問 家庭以外の事業所等から排出される事業系ごみ削減の状況は。

答 事業系ごみは削減が進んできたものの、ここ2・3年は足踏み状態であり、一般廃棄物(ごみ)処理基本計画の目標を達成するためには、平成28年までに、あと2千数百トンの削減が必要であり、できる限りの方策で、削減に努めたい。

市場と地元商店街との連携は

問 市場の活性化のため、販路開拓等で地元商店街などと連携することへの考え方は。

答 市場と商店街の特性を活かし、相乗効果が生まれるような事業展開を考えている。平成25年度は、市場の販路開拓の取り組みとして、中小スーパー等の訪問を行ってきた。引き続き、市内の事業者と市場を連携させるべく、取り組むたい。



教育未来分科会

所管 こども未来局・教育委員会

こどもの参画事業の今後の展開は

問 こどもの参画事業は全体をモデル事業として進めているが、今後の展開は。

答 「こどものまちCBT(ちばタウン)」や居場所としてのこどもカフェの設置をモデル的に行っているが、地域での担い手が見いだせないなどの理由から、未だ全市展開に至っていない。モデル事業を続けていく中で、全市展開への足掛かりとしていきたい。



いじめや不登校などに対応するスクールソーシャルワーカーの活動体制は

問 スクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカーの活動体制と連携はどのようになっているのか。

答 3人のスーパーバイザーを核とした相談体制を整えており、適宜スクールカウンセラーからの相談を受けている。スクールソーシャルワーカーは、スーパーバイザーから助言を受け、教育委員会事務局の指導主事と話し合いを持ったうえで活動している。

都市建設分科会

所管 都市局・建設局・水道局

分譲マンションの再生支援は

問 大規模団地やマンションの再生に対する支援内容は。

答 段階的に支援しており、まず、セミナーやマンション相談を実施し、老朽化した自分たちのマンションの再生について問題意識をもってもらい、次に合意形成支援制度により修繕か建て替えるかの検討等の経費を支援している。建て替える場合は、設計・工事費の一部を助成する地域再生支援事業が活用でき、進捗状況に応じた支援をしている。

雨水貯留槽設置補助金制度の周知は

問 雨水貯留槽の設置補助金制度の周知への取り組みは。

答 雨水流出を抑制するための雨水貯留槽等については、浸水被害が発生した地区を中心とした自治会へ説明会を行うとともにリーフレットを配布している。また、新規指定排水設備工事業者への講習会でリーフレットの内容を説明するとともに、建築確認審査機関等にもリーフレットを配布するなど積極的なPRに努めている。

